

平成29年度 第39回関東ミニバスケットボール大会 報告書

東京都ミニバスケットボール連盟 井澤 元花

大会名	第39回関東ミニバスケットボール大会		
会場	山梨市民総合体育館 小瀬スポーツ公園体育館 緑が丘スポーツ公園体育館		
派遣期間	平成30年1月6(土)～8日(月) ※1月6日(土)は審判会議および審判ミーティング		
講師	山梨県バスケットボール協会 審判長 河野 仁 氏 副審判長 手塚 清孝 氏 審判委員 丸山 淳 氏 審判委員 佐田 幸一 氏		
参加チーム	千葉県	男	小栗原MBC 松戸ミニバスケットボールクラブ
		女	宮本MBC 二和MBC
	東京都	男	光華ミニバスケットボールクラブ 国分寺MBBC
		女	深川ミニバスケットボールクラブ 小金井ミニバスケットボールクラブ
	埼玉県	男	戸田ミニバスケットボールクラブ 東松山西ミニバス
		女	川口じりんMBC 春野ミニバスケットボールスポーツ少年団
	神奈川県	男	汐見台ポシブル 川上北ブルーデビルス
		女	東希望が丘ミニバスケットボール部 榎が丘ファイターズ
	群馬県	男	伊勢崎殖蓮ミニバスクラブ 千代田ミニバスケットボール少年団
		女	大間々南ミニバスケットボールスポーツ少年団 伊勢崎あずま南ミニバス
	茨城県	男	牛久ミニバススポーツ少年団 真鍋ミニバスケットボール少年団
		女	下妻MBC 並木シルバーフォックススポーツ少年団
	栃木県	男	宮の原ミニバスケットボール部 雀宮中央ミニバスケットボールスポーツ少年団
		女	今二Rabbits スポーツ少年団 新橋ヴィクトリーパワーズ
	山梨県	男	塩山ミニバスケットボールスポーツ少年団 池田ミニバスケットボールスポーツ少年団
			大國ミニバスケットボールスポーツ少年団 昭和ミニバスケットボールスポーツ少年団
		女	敷島南ミニバスケットボールスポーツ少年団 小明見ミニバスケットボールスポーツ少年団 船津スターウインズ 山中湖東スポーツ少年団ミニバスケットボール部
	スケジュール		
日にち	時間	内容	場所
1月6日(土)	16時30分	集合	ホテル石庭
	17時00分	審判員会議	
1月7日(日)	8時40分	審判受付	小瀬スポーツ公園体育館
	9時00分	1日目審判講習会開講式	
	9時30分	競技開始	
	16時00分	競技終了	
	16時10分	1日目閉講式	
1月8日(月)	8時10分	審判受付	山梨市民総合体育館
	8時30分	2日目審判講習会開講式	
	9時00分	競技開始	
	15時30分	競技終了	
	15時45分	2日目閉講式	
	16時00分	解散	

講義 山梨県バスケットボール協会 審判長 河野 仁 氏

2017-18 JBA プレイコーリング・ガイドライン について

初日の講義では、JBA プレイコーリングガイドラインをもとに、具体的にゲーム中起こり得るプレイを想定しながら、話しが行われた。

- ・悪い手・腕・肘の整理は、どのカテゴリーでも笛を入れていかなければならないものであり、RSBQ に影響がなければ取り上げる必要はないが、判定の材料として認識をしておく必要がある。また、偶然でも肘が当たってしまうことは、ファウルに成り得る行為である。
- ・スクリーンプレイについては、シリンダーよりも大きく広げる足や腕はオフェンスに責任があり、スクリーンを柱に例えて考えて、動いたり遅れたりするスクリーンをしっかりと見極めていく。
- ・ブロック・チャージングでのインパクトの大きい触れ合いに関しては、必ず笛を入れていかなければならない。
- ・オフェンスがシュートを打ち、着地までにディフェンスが当たれば、プロテクト・シューターの考え方を適応し、ガイドラインに当てはめていく必要がある。
- ・ミニバスのルールブックには、テクニカルに関して「ミニバスケットボール競技の性質上、テクニカル・ファウルを取り上げる前に警告という手段を用いて再発を防止することが望ましい。」と記載をされているが、ゲームの終盤で速攻が出せなくなってしまうほどの妨げをしたり、あまりに過度なフェイクだと審判が判断したりするものに対しては、ミニバスでも一発テクニカルの対象と成り得る。

担当試合①

日時・会場	対戦	相手審判	主任
1月7日(日) ③11:40~ 小瀬スポーツ公園体育館	雀宮中央 — 真鍋 (栃木2位) (茨城2位)	副審 山本 恵一 (山梨)	大木 沙織 (山梨)

ミーティング内容

- ・丁寧にプレイの確認をしているが、その中で迷ってしまう弱い笛をなくしていく必要がある。
- ・試合開始の序盤から、真鍋の悪い手のつかい方に気付き、笛を入れていくべきだった。
- ・センターについているミスマッチのディフェンスは、ファウル覚悟でべたべたとついていくことが予想されるため、笛を入れてセンターのストレスを無くしてあげる必要があった。

担当試合②

日時・会場	対戦	相手審判	主任
1月7日(日) ⑥14:55~ 小瀬スポーツ公園体育館	あずま南 — 敷島南 (群馬2位) (山梨1位)	副審 新島 薫 (栃木)	深澤 雅俊 (山梨)

ミーティング内容

- ・リードからのクロスコールを減らしていく。
- ・オフボールのディフェンスの付き方で、手や身体を使っておさえるようなものは、笛を入れても良かった。

担当試合③

日時・会場	対戦	相手審判	主任
1月8日(月) ④12:15~ 山梨市民総合体育館	伊勢崎殖蓮 — 大国 (群馬1位) (山梨3位)	主審 根本 優(茨城)	丸山 淳(本部)

ミーティング内容

- ・ニューリードに入るのをもっと速くするべき。リードが先回りをして、プレイヤーがくるのを確認する。リード→プレイヤー→トレイルの順番にフロントコートに入ってくるように、余裕をもつ。
- ・タイムアップの確認はトレイルの役割であるが、相手審判がタイマーから遠く、時間を確認できないような状況であれば、助けることもある。
- ・プレイヤーのスクリーンのかけ方に注意をする。やってないと見せかけながら引っかけるスクリーンがいくつかあった。それに気付く必要がある。

担当試合④

日時・会場	対戦	相手審判	主任
1月8日(月) ⑥14:25~ 山梨市民総合体育館	船津 SW — 大間々南 (山梨3位) (群馬1位)	主審 伊東 龍一(栃木)	飯島 祐紀(茨城)

ミーティング内容

- ・トレイルとリードの役割がはっきりとしていた。エリア1から始まるドライブは、トレイルが最後まで責任をもって見に行く。トレイルがならなかったときにはリードがならす。
- ・オフェンスファウルを吹いた時、動きながらの判定だったため、本当にイリーガルだったのか確認をする。
- ・トレイルからトラヴェリングを吹いたものが、動きながらの判定だったため、必ず止まって判定をしていく。

全体の感想

今回、3回目の関東ミニバスケットボールの派遣となり、B級公認5年目として、主審で入る割り当てもありました。主審として相手審判やゲームを引っ張っていく中で、自分自身に足りないところや課題が多く残り、今回の経験を自県ですっかりと活かしていかなければならないと強く感じました。

講師の方々が仰っていた中で特に印象的だったのは、ゲーム中に声をつかってプレイヤーやベンチとコミュニケーションをとることで、未然にファウルやテクニカルを防ぐことができるとお話を頂きました。この事は、今後どのカテゴリーを吹く中でも活かすことができ、ゲームを収める上で重要な事だと感じました。

また、初日の河野審判長からの講習を受けたことで、オンザコートで起きる事象を、ガイドラインに当てはめながら判定をすることができました。ガイドラインを理解することで、正しい判定に繋げることができると感じました。

最後に、開催県としてお世話になりました山梨県の深澤雅俊副審判長をはじめ、山梨県の審判員の皆様に感謝申し上げます。また、御指導いただきました山梨県バスケットボール協会の河野仁様、手塚清孝様、丸山淳様、佐田幸一様、関東ミニバスケットボール連盟山野辺審判長をはじめ、今大会に派遣された関東ミニバスケットボール連盟の審判員の皆様、そして派遣をしていただきました東京都協会の皆様に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。